

# 資源管理型漁業推進総合対策事業

## (マダイ栽培資源調査)

藤川裕司・山田 正

本事業は昭和63年度より5ヵ年計画で、マダイの放流効果の推定および資源管理の方策を策定する目的で行っている。なお、調査は栽培漁業センターと鹿島浅海分場が行っており、本報告は当分場が担当している、美保湾における桁曳網によるマダイの漁獲実態および投棄魚についてとりまとめたものである。

### 方 法

平成3年5月～4年2月にかけて、美保関漁協および福浦漁協所属の桁曳船を対象に調査を行った。水揚げされたマダイは、基本的には全数調査を行ったが、尾数が多い場合は、その一部を抽出して測定を行い、その後、全体の組成へ引き伸ばした。また、投棄魚は、漁獲物を選別した後に残った、通称“ゴミ”と呼ばれるものの一部を研究室へ持ち帰り測定を行った。

### 結 果 お よ び 考 察

平成3年5月～4年2月にかけての、桁曳網による1日1隻当たりのマダイ漁獲物の尾叉長組成の経月変化を図1に示した。マダイ当歳魚は、例年だと7月下旬より漁獲され始めるが、今年度は9月より漁獲され始めている。これは、7～8月にメイタガレイが多獲されたために、漁場が沖合の水深60～80mが主体となり、浅海部における操尾

業がほとんど行われなかったためである。  
有用魚種の1日1隻当たりの投棄尾数と大きさの範囲を表1に示した。マダイは9月より投棄され始め、この時期もっとも多いが、10月以降は減少する。投棄尾数は平成元年度よりは少なく、平成2年度とほぼ同等である。他の有用魚種では、シロイカが10～2月にかけて多数投棄されているのが特徴的である。

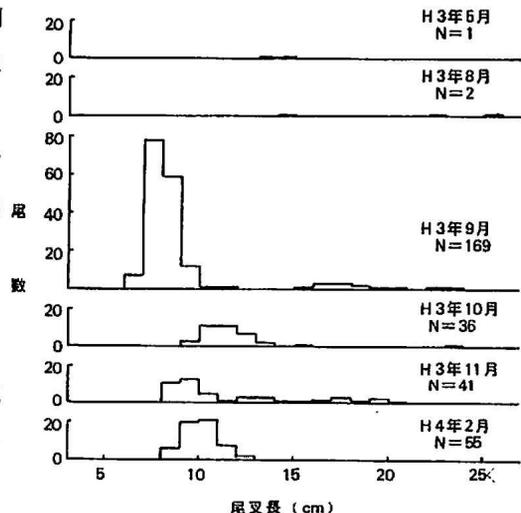


図1 桁曳網の1日1隻当たりのマダイ漁獲物の尾叉長組成

表1 桁曳網の1日1隻当たりの投棄尾数と大きさの範囲

上段：個体数

下段：大きさの範囲(cm)

(平成3年5月～4年2月)

	5月	8月	9月	10月	11月	2月	測定部位
マダイ	0	0	142 6～10	8 9～12	18 8～10	12 8～11	尾叉長
チダイ	6 10～12	0	3 6～9	2 8～9	5 8～10	11 8～10	尾叉長
ヒラメ	0	0	64 8～18	31 12～19	20 13～20	0	全長
メイタガレイ	35 7～12	86 9～18	122 8～15	13 10～14	20 11～15	19 11～15	全長
キス	5 12～13	0	3 12～13	42 5～10	84 5～12	251 7～13	尾叉長
ヒメジ	37 9～15	2 11～14	68 5～17	204 4～10	100 6～15	674 5～17	尾叉長
カワハギ	2 13～14	0	151 4～19	16 7～14	50 6～14	72 6～15	全長
シロイカ	1 6～7	0	12 2～6	2731 3～6	723 2～8	482 3～10	外とう長
小エビ類	59	16	157	245	555	827	